

1. 人口規模——出生減と流入増のプレッシャー

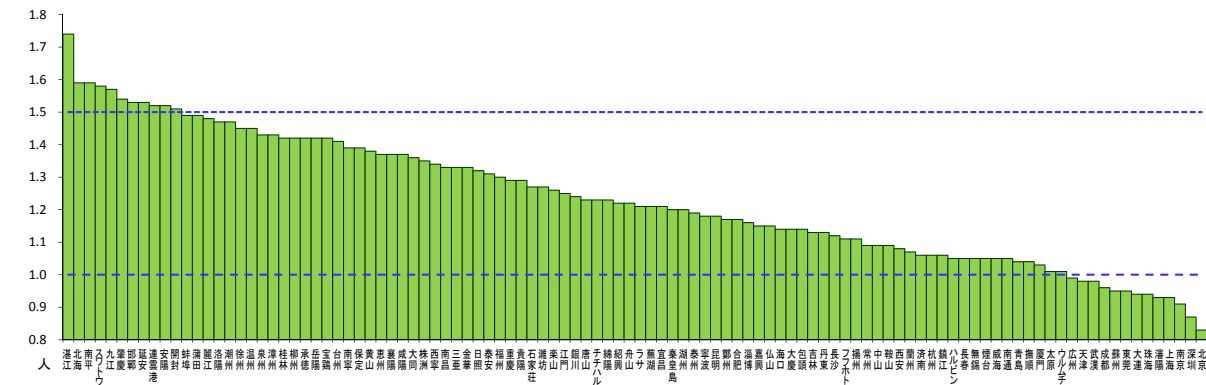
一人っ子政策の浸透で都市人口の自然増（出生マイナス死亡）は微増にとどまっている。女性は子どもを産みながら、平均出産数が1人に及ばない所が少なくない。その一方で他所からの流入が著しく人口は急膨張している。10年間（2000～2010年）の流入人口の比率は106都市中で、30%以上が40都市、50%以上が7都市に達している。この流入者の中には同一市の県と市轄区間の移動、同一省の県市からの移動、他省からの移動を含んでいるが、一般的に農村から都市へ、人口過疎地から稠密地へ、貧困地から富裕地へ移動している。

人口が多く、人口流入率の高い都市ほど、人を引き付ける魅力に富んでいる。人口数をA～Dに4区分、人口流入率をa～dに4区分して、その組み合わせで106都市を格付けしたのが（1）の表と（4）のグラフである。

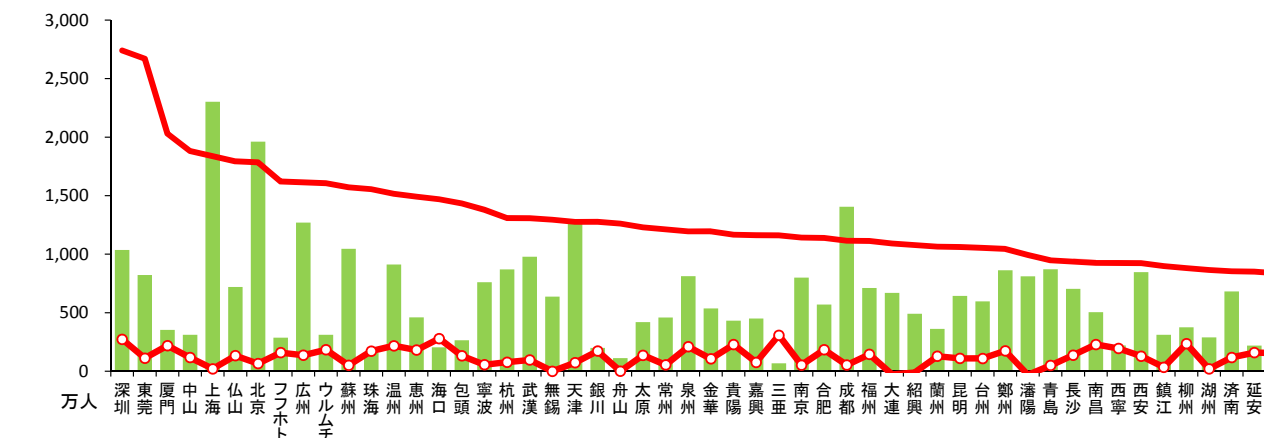
(1) 10年間に人口30%以上増が40都市ある——人口規模と流入率による格付

人口 (2010年センサス)	人口流入率 (2010年センサス)			
	a (40%以上)	b (40%未満 30%以上)	c (30%未満 15%以上)	d (15%未満)
A (1000万人以上)	上海、北京、広州、蘇州、深圳	成都、天津	重慶、ハルビン、石家荘	保定
B (1000万人未満 600万人以上)	温州、東莞、寧波、佛山	武漢、杭州、鄭州、泉州、南京、福州、大連、昆明、無錫	青島、西安、瀋陽、長春、長沙、煙台、濟南、南寧	邯鄲、濰坊、徐州、唐山、南通、湛江、洛陽
C (600万人未満 200万人以上)	惠州、厦門、中山、ウルムチ、フフホト、包頭、海口	台州、合肥、金華、紹興、常州、嘉興、貴陽、太原、蘭州	南昌、桂林、綿陽、瀋陽、揚州、江門、吉林、宜昌、肇慶、株州、柳州、鞍山、大同、鎮江、秦皇島、大慶、湖州、威海、日照、蒲田、潮州、南平、丹東、蕪湖、西寧、延安	襄樊、泰安、岳陽、スワトウ、チチハル、安陽、咸陽、漳州、九江、開封、泰州、連雲港、宝鶏、承德、梁山、蚌埠、撫順
D (200万人未満)	珠海	銀川、舟山、三亜	北海、ラサ	黄山、麗江

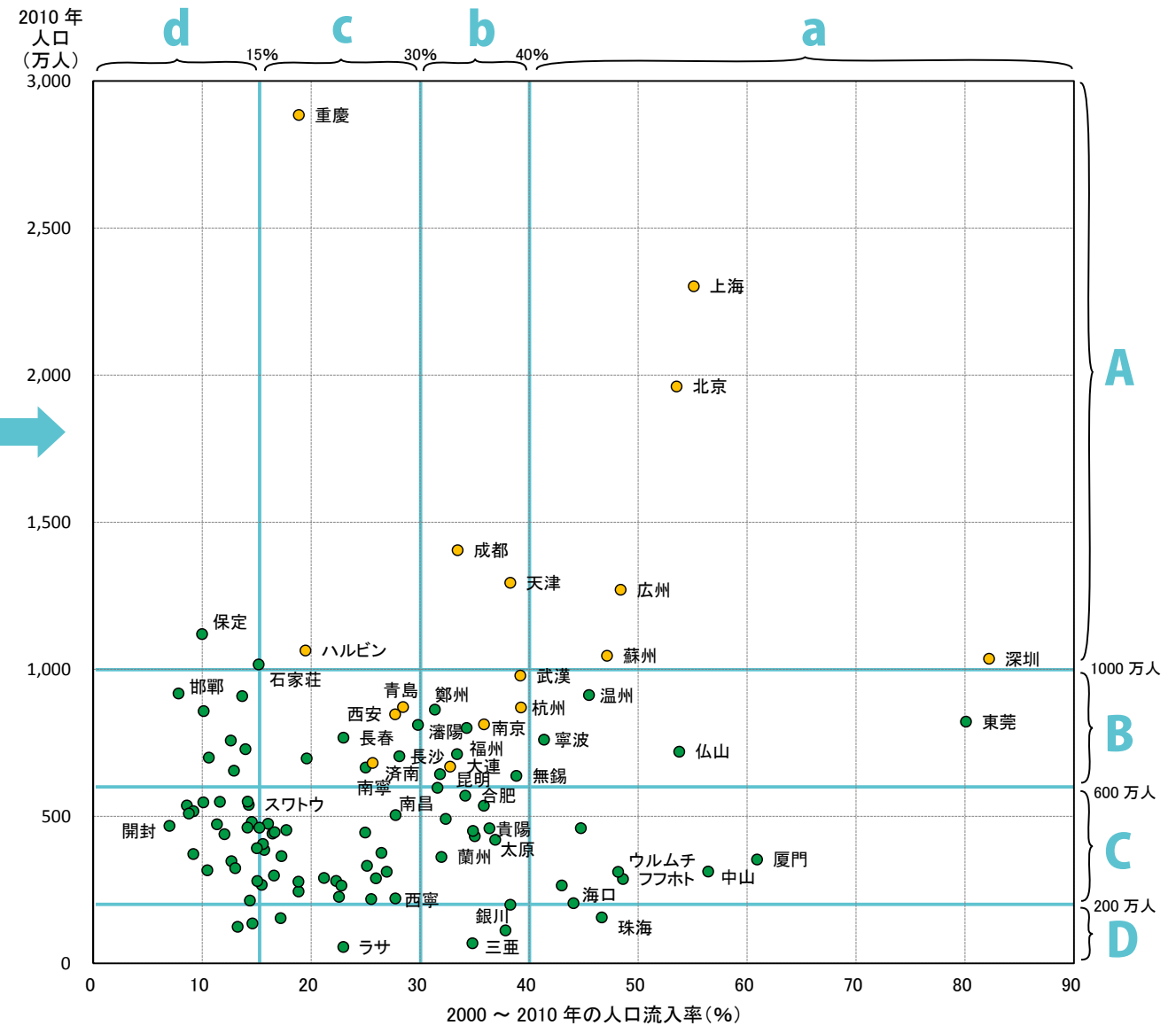
(2) 大都市で女性は子どもを産みながら——15～64歳女性の平均出生数 (2010年センサス)



(3) 都市の膨張は他地区からの流入による——人口・自然増加率・人口流入率 (2010年センサス)



(4) 人口吸収力のある都市・ない都市——人口規模と流入比重の相関 (2010年センサス)



(資料)「中国2010年人口普查分県資料」